

■小泉文夫 音楽学者。世界五十数カ国の民族音楽を訪ねて、音楽の意味を問い続け、大きな影響を及ぼして、早世。

こいずみふみお

金融恐慌・1927= 東京府荏原郡大井村で、山梨県の素封家出の実業家の末子に生まれる。

満州事変・1931= 4歳：

帝人疑獄事件1934= 7歳：杜松尋常小学校入学、

二二六事件・1936= 9歳：

日中戦争始・1937=10歳：

のち、大間窪尋常小学校、原尋常小学校に転校。ヴァイオリン、水泳に熱中する。

大政翼賛会・1940=13歳：東京府立第4中学校(現戸山高校)入学。安部幸明と出会う。

日米開戦・1941=14歳：

年金+総武装 1944=17歳：旧制第二高等学校理科乙類に入学。音楽班に入る。

敗戦・1945=18歳：山形県上の山温泉で陸軍軍医学校に勤労働員中に敗戦を迎える。

新憲法公布・1946=19歳：世田谷の池の上教会に通い、賛美歌を楽しむ。

新憲法施行・1947=20歳：洗礼を受け、宗教音楽研究会に通い、声楽家加古三枝子と出会う。

極東裁判決・1948=21歳：東京大学文学部に入学。上野警察、築地警察で通訳のアルバイトをする。

三大事件・1949=22歳：美学美術史学科に進む。加古三枝子と結婚。

朝鮮戦争始・1950=23歳：吉川英史の日本音楽史の講義で地歌「ままの川」の実演を聴く。

独立回復・1951=24歳：近代標題音楽に関する卒論で東大を卒業、大学院に進学。町田佳聲の「日本民謡大観」の採譜を手伝う。

メデー事件・1952=25歳：一人娘抄子生まれる。*響機関誌{フィルハーモニー}の編集委員となる。NHKラジオ放送{婦人の時間}などで民族音楽の解説を始め、世界の民族音楽に関心をもつようになる。

TV放送始・1953=26歳：平凡社嘱託となり「音楽事典」の編集に携わり、比較音楽学の先行研究を学ぶ。

自衛隊発足・1954=27歳：「日本のリズム」を{音楽芸術}誌に連載。NHK・FM実験放送で「世界伝統音楽研究に関する方法論と基礎的諸問題」を発表し始める。東洋音楽学会例会でインドのベンガル民謡等を聴く。

国連加盟・1956=29歳：音楽公演「世界の民謡」を企画、司会。東京大学大学院修了。インド政府給費留学生試験に合格。

なべ底不況・1957=30歳：インド・マドラスの州立カルナータカ中央音楽院に入学。南インドの民俗音楽、芸術音楽を調査。

イサハトラー・1958=31歳：北インドの州立バトカンデ・ヒンドゥスターン音楽院に入学。「日本伝統音楽の研究」を刊行。帰国。

美智子妃・1959=32歳：学会例会などでインド音楽を講ずる。NETテレビ{世界の音楽}等の企画に携わり、テレビ出演も始める。

安保闘争・1960=33歳：平凡社退職、東京芸術大学音楽学部専任講師になる。

タイタイ病始・1961=34歳：テヘランで開催された国際音楽協議会の会議に出席、ペルシア音楽に触れる。東京のわらべ歌を調査。

全国総合計画1962=35歳：「日本のリズム」を{音楽芸術}誌に連載。NHK・FM実験放送で{世界の民俗音楽}が放送される。

TV宇宙中継始1963=36歳：{芸大民俗音楽ゼミナール(以下民ゼミ)}を結成、沖縄本島、宮古諸島、八重山諸島の音楽調査を行なう。東洋音楽学会メンバーとして、九学会連合による「下北半島総合調査」に参加。

東京リビック 1964=37歳：{第1回カイロ国際民俗芸能祭}に参加、エジプト、西アジア、南欧、東欧の音楽調査を行ない、帰国。

大学紛争始・1965=38歳：*NHK・FM放送{世界の民俗音楽}が週1回放送される。

いざなぎ景気1966=39歳：東京芸術大学助教授となる。東洋音楽学会の北海道・渡島半島民俗音楽調査に参加。

美濃部都知事1967=40歳：{民ゼミ}による中野区、新宿区のわらべ歌集中調査。九学会連合「利根川流域総合調査」に参加。ハワイ、中南米、カナダのエスキモー音楽調査。アメリカのウェスリアン大学客員教授を務め、

震ヶ関ビル・1968=41歳：アラスカのエスキモー音楽調査をして帰国。{民ゼミ}による岐阜県郡上八幡盆踊り調査。東洋音楽学会による土佐民俗音楽調査に参加。歌謡曲の音楽分析を始める。

全共闘ビーク 1969=42歳：東洋音楽学会の鹿児島県薩摩半島民俗音楽調査に参加。小泉文夫編「わらべうたの研究(楽譜編・研究編)」刊行。芸大紛争が起こり、学生と教官の間に立とうと努力。

大阪万博・1970=43歳：日本万国博覧会協会の委嘱で「アフリカのまつり」「アジアのまつり」の制作、演出。飛騨高山民俗音楽調査に参加。外務省の委嘱でフィルム「Invitation to Japanese Music」の製作。

ドルショック・1971=44歳：アフリカ諸国の音楽調査。ウェスリアン大学で客員教授。黒人教会での録音調査。地中海沿岸地域、インドの少数民族トダ、スリランカのヴェッダや東南アジア諸国の音楽調査。

日中国交回復1972=45歳：ドイツの映像百科のために舞楽の映画を5本製作。韓国、インドネシア、フィジー島、ヤツプ島の調査。

石油ショック1973=46歳：「おたまじゃくし無用論」刊行。台湾、バルカン半島の音楽調査。10年ぶりに沖縄、宮古群島の音楽調査。

角栄金脈辞任1974=47歳：東京芸術大学音楽学部教授となる。インド、アフガニスタン、マレーシア、八重山諸島の音楽調査。

クアランゴール事件1975=48歳：*ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)主催「音楽教材専門家国際会議」に出席、その中心となって82年までアジアの子どものための教材作りに関わる。イラクの音楽調査。

田中角栄逮捕1976=49歳：第1回「アジア伝統芸能の交流」プロジェクトを監修、推進。日本音楽家代表団の一員として中国訪問。

JALハイジャック 1977=50歳：歌謡曲を巡るシンポジウム「今日の大衆と音楽」の企画に関わる(82年まで)。西、南、中央アジア、ソ連の音楽調査。「日本民謡まつり」でアジアの音楽の企画・解説。

成田衝突・1978=51歳：韓国、モンゴル音楽調査。国立劇場公演「日本音楽の流れ唱歌」の企画・解説(以降82年まで担当)。皇太子夫妻に「東欧の民族音楽」進講。第2回「アジア伝統芸能の交流」を監修者として推進、参加。

革新大敗北・1979=52歳：インド、スリランカ、インドネシア音楽調査。奏楽堂移転問題の意味を知る。民音「シルクロード音楽の旅遙かなる歌の道」全国公演の企画・解説・司会を務める。日本レコード大賞審査員。

貿易摩擦問題1980=53歳：NHKより「日本民謡大観(沖縄・奄美篇)」参画の依頼。南米、マレーシア、パキスタン、インド、中国、ソ連の音楽調査。「中国少数民族文芸会演会」見学のため訪中。サントリー学芸賞(芸術・文化部門)受賞。

・・・・・・・・1981=54歳：ルーマニア、ブルガリア、奄美大島、インド、ネパールの音楽調査。民音「シルクロード音楽の旅旅人たちの道」企画・解説・司会。音楽調査。

中曽根内閣・1982=55歳：モンゴル、トルコ、インド、中国、奄美諸島の音楽調査。

デイズ・ニューラト 1983=56歳：*奏楽堂の上野公園内保存決定。キプロス、ギリシア、ビルマの音楽調査。「沖縄シンポジウム(沖縄タイムス)」に出席。膵臓癌摘出手術後、肝不全のため、没した。